

中国人日本語学習者の漢語同形語習得 — 同形類義語 (Overlap 語) を中心に —

A study on acquisition of orthographically similar words in Japanese and Chinese
by native Chinese speakers learning Japanese: Focusing on Overlap words

張 婧禕[†]
Zhang Jingyi[†]

Abstract Previous studies have broadly focused on the acquisition of orthographically similar (Overlap) words in Japanese and Chinese used by native Chinese speakers who are learning Japanese with the concept of general semantic usage or semantic range between Japanese and Chinese languages. This study focuses on both issues; the author aims to address this issue by administering a true/false test on Overlap words, which are categorized into six types of frameworks that are based on the concept of general semantic usage or semantic range. The test was partially based on previous studies done on native Chinese speakers who are learning Japanese language. The results of the study shows the influence of kanji knowledge onto the acquisition of Overlap words in Japanese and Chinese by native Chinese speakers, depending on the new framework based on the concept of general semantic usage and semantic range between Japanese and Chinese languages of Overlap words. In conclusion, the present study reveals that kanji knowledge improves the acquisition of Overlap words, while, Overlap words, which exists in both (Chinese and Japanese) languages with a solely meaning and not the same general semantic usage will be impeded, and thus the degree of difficulty will increase.

1. はじめに

文化庁¹⁾ (1978) は日本語における漢語を S・O・D・N (Same / Overlap / Different / Nothing の頭文字) と 4 種類に分けている。Same とは、日中両言語における書字あるいは意味を共有し、それらが極めて近い漢語である。Overlap とは、日中両言語における意味が一部重なるが、両者の間にずれのある漢語である。Different とは、日中両言語における意味が全く違う漢語である。Nothing とは、中国語に存在しない日本語の漢語である。

この 4 種類のうち、Same 語、Overlap 語、Different 語のような日中両言語の間に意味や書字的に共有するものは同形語と呼ばれ、日本語に特に多く存在する。これら

の語の割合について、小森・他²⁾ (2014) は文化庁 (1978) による分類に基づき、日本語の漢語のうち、約 4 分の 3 が同形語であり、このような同形語の書字上の類似性から、中国語の漢字知識が日本語の理解を促進すると指摘している。実際、心理言語学の実験を研究手法とし、大和・玉岡³⁾ (2009) と早川・玉岡⁴⁾ (2012) は、語彙性判断実験を実施し、非同形語と比べ、同形語が語として理解される時間が速いことを検証した。そのことから、同形語は非同形語よりも習得されやすいとされている。

しかし、同形語のうち、Overlap 語は、同形類義語であるため、意味を共有するとはいうものの、両者の間に異なりがある。例えば、「検討 (检讨)」という日中同形類義語の意味について、現代日本語においては、「物事を詳しく調べ、行けるかどうかを考える」を一般的な意味として使われているが、中国語においては、「自分が犯した

[†] 愛知工業大学 基礎教育センター (豊田市)

過ちの原因を追究し、批判する」意味を表す。両者に書字上の類似性があるからと、日本語を学ぶ手掛かりとして、この中国語の意味を日本語に使うと、大きく誤ってしまう。日本語の漢語を学ぶ際に、書字的類似性にこのようなことがあるから、中国語の漢字知識を安易に利用すると、むしろ習得の妨げとなる。

このような同形類義語(以下はO語に記す)について、三浦⁵⁾(1984)は、両言語におけるO語の意味範囲を比較し、その意味範囲の広さによって3分類の枠組みを提案した。陳⁶⁾(2009)はO語を言語意味使用の一般性の高低で2分類にし、習得の難易度における要因を検証する枠組を提案した。

これらの枠組みを具体的に考察してみると、陳(2009)に日中両言語におけるよく使う意味が一致するO語を一括にして分類されたO①の「解決」、「現金」、「単位」の意味範囲について、以下のような分岐がある。中国語の「他把那块蛋糕给解决了。」(彼はそのケーキを食べた。)という文に使用された「解決」は「問題を解き、納得のいくようにする」を意味するのではなく、「食べるまたは完食する」意味として解釈される。また、「他爸爸在单位上班。」(彼のお父さんは会社で務める。)という文にある「単位」は「寸法の基準」を指すことではなく、「会社や働く部門」の意味である。それに、中国語の「現金」では、「キャッシュ」という名詞の意味しか持っていない。つまり、日本語の中にない意味が中国語に使われているため、「解決」は中国語の意味範囲は日本語より広く、日本語の意味が中国語の中に含有するO語である。独自の意味を持つ「単位」は中国語の意味が日本語と一部重なるO語である。中国語の中にない意味が日本語に使われているため、「現金」は中国語の意味範囲は日本語より広く、中国語の意味が日本語の中に含有するO語である。つまり、「解決」「単位」「現金」の3語の意味範囲が各々違々と分かった。このように三浦(1984)の枠組みからも見ると、両言語における語としての意味範囲は共有関係であり、それぞれ独自の意味を持つO語があり、語としての意味範囲は包含関係であるO語もあると分かった。したがって、単純に語の意味の使用頻度の点からO語を2分類し、語の習得における母語の漢字知識の考察については十分とは言えないと考える。すなわち、中国語の漢字知識はO語の習得にどのように干渉するのかを明らかにするためには、意味の使用頻度と共に、言語間の意味の包含範囲(意味範囲の広さ)を視野に入れて考察しなければならない。

以上のような問題意識に基づき、本稿は、O語に対して、意味使用の一般性と日中O語における意味範囲の広さを併せて、先行研究の枠組を再構築する。そして、中

国人日本語学習者にO語をどのように習得させるかについて、新たな可能性を試みる。

2. 研究目的

本稿は先行研究を踏まえ、O語、つまり、日中同形類義語に焦点を絞って、意味使用の一般性および意味範囲の広さによって再分類を行い、中国人日本語学習者による習得を検討する。具体的には、これまでの意味範囲の広さによる3分類(三浦, 1984)に、陳(2009)の意味使用の一般性の考えを加え、同じ中国語の漢字語は日本語の意味使用の一般性と一致するかどうかによって、6分類を行う。この6分類のO語は、日本語の意味が中国語の中に含有し、意味使用の一般性が一致するOI、日本語の意味が中国語の中に含有し、意味使用の一般性が一致しないOII、中国語の意味が日本語の中に含有し、意味使用の一般性が一致するOIII、中国語の意味が日本語の中に含有し、意味使用の一般性が一致しないOIV、中国語の意味が一部日本語と重なり、意味使用の一般性が一致するOV、中国語の意味が一部日本語と重なり、意味使用の一般性が一致しないOVIである。

以上の枠組みに基づいて、6分類された2字の漢語を含む正用文と誤用文で構成された複数の文を正誤判断する形式によって、調査を行う。その調査結果の分析手法として、分類木分析を用い、正用と誤用両方からどのようなO語が習得し難いのか、その特徴を考察する。

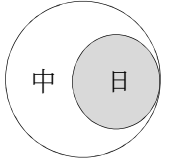
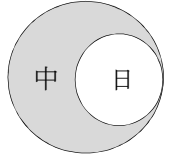
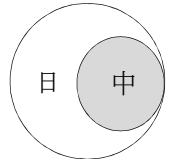
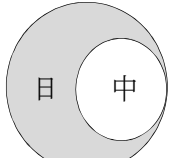
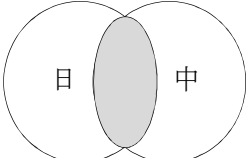
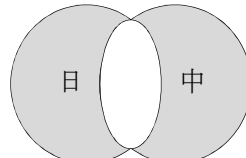
それらによって、中国人日本語学習者の日本語と中国語の習得に資する新たな視点を提示するのが、研究目的である。

3. 調査方法

3・1 調査内容

正用と誤用からO語の習得について検討するため、中国人日本語学習者12名を被験者として、O語を含む正誤判断文の形で60問に答えてもらう調査をした。本調査で使用する枠組みは、前節で述べたように三浦(1984)が行ったO語の3分類に、意味使用の一般性の6分類である。各分類のO語に対応し、5つの漢語、計30語を調査語として先行研究から選択した。使用する漢語のリストおよび分類は以下の表1に示した。また、すべての漢語の難易度について、日本語能力試験の各級の語彙配当表を調べ(<http://language.tiu.ac.jp/>)、その結果も表1に報告した。各語に対して、正用文と誤用文、一文ずつ用意した。その文は、筆者の作文以外に、先行研究(陳, 2009)から一部借用した計60文(そのうち、30文は正用文、

表1 使用した漢語のリストおよび語彙配当級

タイプおよび表示図	使用漢語リスト	語彙配当級
O I （日本語の意味が中国語の中に含有し、意味使用一般性が一致する） 	解決 修理 現実 理想 研究	N 2 N 3 N 2 N 3 N 2 N 3 N 2 N 3 N 4
O II （日本語の意味が中国語の中に含有し、意味使用一般性が一致しない） 	質問 入手 資格 感激 栽培	N 5 N 1 N 1 N 2 N 3 N 1
O III （中国語の意味が日本語の中に含有し、意味使用一般性が一致する） 	現金 失敬 呼吸 入口 判断	N 2 N 3 級外 N 2 N 3 N 5 N 2 N 3
O IV （中国語の意味が日本語の中に含有し、意味使用一般性が一致しない） 	架空 愛情 遠慮 迷惑 邪魔	N 2 N 3 N 2 N 3 N 4 N 2 N 3 N 4
O V （中国語の意味が一部日本語と重なり、意味使用一般性が一致する） 	同居 進行 留守 意見 単位	N 1 N 1 N 4 N 4 N 2 N 3
O VI （中国語の意味が一部日本語と重なり、意味使用一般性が一致しない） 	始末 下手 処置 皮肉 上品	N 1 N 5 N 1 N 2 N 3 N 2 N 3

注：影の部分は意味使用の一般性が高いと表す。

30 文は誤用文）である。それらの文はランダムに被験者に提示し、文における該当漢語の意味使用が正しいかどうかを被験者に「○/×」の形で回答してもらった。1 問に 1 点を配点し、60 点満点にした。O 語の各下位分類の満点は 10 点にした。実際に行った 60 問の調査文は付録資料として添付した。

3・2 調査被験者

日本に留学中の中国人日本語学習者、計 12 名（修士 6 名、学士 6 名）に調査を行った。平均年齢は 26 歳、標準偏差は 3 歳 9 か月であった。最年長は 35 歳 3 か月、最年少は 23 歳 4 か月であった。12 名の被験者の平均日本語学習歴は 7 年 6 か月、標準偏差は 3 年 4 か月であった。学習歴は最長 15 年、最短 4 年であった。

4. 分析の結果

4・1 調査の統計

被験者全員に実施した正誤判断調査の統計の結果は、60 問の平均は 44.75 点、標準偏差は 2.42 であった。最高得点は 48 点、最低得点は 41 点であった。O 語の各下位分類の平均は下記の表 2 に示した通りである。

表 2 O 語の各下位分類による記述統計の結果

同形語（Overlap）の 下位分類	満点	M	SD	Max	Min
O I	10	7.42	1.31	9	5
O II	10	7.75	1.06	9	6
O III	10	5.83	.83	7	5
O IV	10	9.08	.67	10	8
O V	10	6.67	.98	8	5
O VI	10	8.00	.95	9	6

注: N = 12. M = mean. SD = standard deviation.

Max = maximum score. Min = minimum score.

各下位分類の平均は、O I 語が 7.42 点、O II 語が 7.75 点、O III 語が 5.83 点、O IV 語が 9.08 点、O V 語が 6.67 点、O VI 語が 8.00 点であった。そのうち、O IV は一番高く、O III は一番低かった。残りの O I、O II、O V、O VI は中間に位置している。得点の高い順に並べると、O IV > O VI > O II > O I > O V > O III の順となる。記述統計の結果から見れば、意味使用の一般性が一致しない漢語のほうが一致する漢語より得点が高かった。

さらに、学習者による各下位分類の習得を予測するため、分類木分析を統計的手法とし、O 語の習得における要因を分析した。

4・2 分類木分析による正誤判断の予測

調査データに基づき、分類木分析を用い、学習者による正用・誤用の判断を予測した。分類木分析は、決定木分析の一種であり、複数の質的説明変数を用いて目的変数を予測するための多変量解析法である。この統計的な手法を行った予測結果は、樹形図で図示される。それによって、複数の説明変数の中から目的変数を有意に予測できるものを選び、子ノードの形で成長させていく解析法である。このような解析法を使うと、樹形図で要因を階層的に検討できる。本稿は、O語の意味の正用・誤用とO語の6分類はどのように60問の正誤判断文の判断に影響するのかを考察するため、分類木分析の解析法を用いて、意味判断に対して、O語の正用・誤用と各O語の下位分類を予測変数とし、60問の正誤判断文の判断を

予測した。

分類木分析の結果は図1の樹形図に示したとおり、文が正しく判断できるかどうかにも最も強い予測変数となったのはO語の正用・誤用であった[$\chi^2(1) = 71.809, p < .001$]. 正答率は、ノード1の正用文の判断得点(88.3%)はノード2の誤用文(60.8%)より有意に高かった。しかし、正用の場合、さらに枝分けできなかつた。つまり、O語の下位分類が正用文の判断に影響する有意な予測変数とはならなかつた。ここで、学習者にとっては、日本語と中国語における意味または書字が一部共有しているため、そのような共有した情報を持つ漢字を正しく使う文に対する判断ができたと考えられる。

一方、誤用の場合、図1のノード3、4と5に示したとおり、さらに枝分けができ、O語の下位分類が誤用文

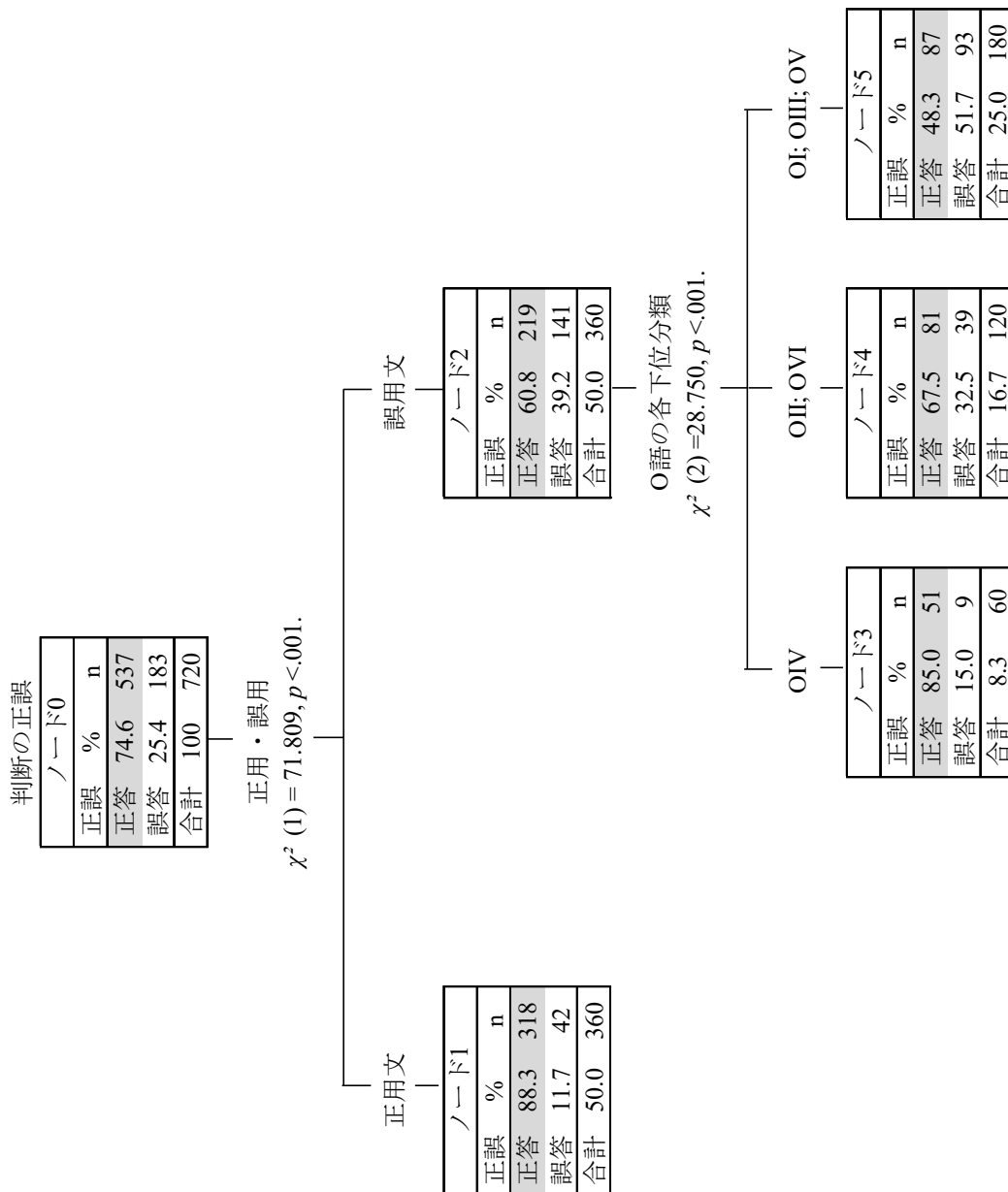


図1 O語の習得の予測結果

の判断に影響した予測変数となった[$\chi^2(2) = 28.750, p < .001$]. つまり、日本語と中国語における共有する漢字の知識は逆に習得の妨げになる働きがあり、正しい判断につながらないことが分かった。

被験者全員の誤用文に対する判断では、OIV (85.0%) はOI, OIII とOV (48.3%) より有意が高く、OII とOVI (67.5%) は両者の間に位置している。低い順で並べると、OI, OIII とOV, OII とOVI, OIV の順となった。以下、誤用文に対する判断に基づき、習得の特徴を総括する。

OIV ($M = 10.2$) タイプの漢語は日本語のほうが意味的には範囲が広く、中国語がその中に含有し、意味使用の一般性が一致しない漢語である。この分類には「架空」「愛情」「遠慮」「迷惑」「邪魔」という5つの漢語があり、それらの語に対応して設けた各問における正答者数から言えば、全体的には、OIV タイプの誤用文判断の平均が一番高かった。OIV のなかで、全員の平均がもっとも低かった問21「本当の愛情は試練に耐えるものです。」(全員平均 = 1点) を見てみると、中国語の「愛情」は「2人で愛する感情」を意味としてよく使われているが、日本語の「愛情」は「親などとの倫理上の感情」のほうがよく使われている傾向がある。このような日中言語における意味使用の一般性および意味範囲による差異がこの項目の得点が極めて低くなった理由として裏付けられるといえよう。一方で、問22、問23と問24の3つの文に対して、全員が満点12点であり、学習者にとって、もっとも誤用が判断しやすかったものである。問22「遠慮」、問23「迷惑」、問24「邪魔」などのような中国語の意味は日本語の中にも含まれるが、日本語と違って、中国語の「遠慮」「邪魔」が名詞として使用され、「迷惑」が形容詞として使用される。これらの語の意味使用は現代日本語の中には使われていないため、学習者にとって、誤用と判断しがちであるといえる。

OI, OIII とOV 語の誤用平均正答率は低かったグループであり、すべて日本語と中国語間の意味使用の一般性が一致するものである。

OI では、日本語の意味が中国語の中に含まれ、意味使用の一般性が一致する「解決」「修理」「現実」「理想」「研究」という漢語である。これらの漢語に対して、設けた各問における正答者数から見れば、全体的には、OI タイプ ($M = 6.8$) の平均得点はあまり高くなかった。問46の「警察は犯人を全部解決しました。」の全員平均が極めて低かった ($M = 1$) のに対して、問47の得点は満点であった。中国語においては、「解決」は「問題を処理し、結果を出す」という基本的な意味としてよく使われている以外に、「全滅」という動詞の意味も使われている。また、

問47の「修理」とは「壊れたものを直す」を表すが、「暴言などで教育する」という周辺的な意味として使われている。調査で使った意味は中国語における意味使用の一般性がやや低いものであるが、日本語の中に含まれていないため、母語からの干渉を受けたと推定できる。そのため、学習者にとっては、このような意味使用の一般性がやや低い中国語の意味を使った誤用文に対して、正しく判断できなかったと考えられる。

OV タイプ ($M = 6.0$) の漢語は日本語と中国語の両言語が共通している部分があるが、各々独自の意味も持ち、さらに、共通意味使用の一般性が一致する漢語である。「同居」「進行」「留守」「意見」「単位」という5つの漢語に対応して設けた各問における正答者数から、全体的には、OV タイプの漢語の平均はOIII とほぼ同じくらい低かった。そのうち、問28の「若い頃、おやじにはよく意見されました。」の得点(全員平均 = 1点) が極めて低かったのに対して、問29「単位」の誤用文だけ全員判断できた(全員平均 = 12点)。極めて低かった問28の「意見」は「不満」と解釈され、中国語の中に独自に存在する意味である。このような意味は日本語の中にもない。しかし、学習者はこのような中国語における独自の意味に依存し、日本語のO語を習得する際に、中国語の漢字知識から負の転移が生じる。特に、問27の「留守」という漢語はもともと中国語では「辺境に駐留する」という意味で使われてきたが、今は大都会へ出稼ぎに行く若者や中年が多くなる現状に伴い、貧しい実家に残される児童や老人の暮らしが社会問題になり、「留守孤児」や「留守老人」という表現をよく使うようになった。ここでの中国語の「留守」は「就労先が乏しい地域に在住し、誰かに面倒を見てもらう」という意味を表す。このような意味は日本語の意味と混乱しやすいので、OV に対して、意味使用の曖昧性が高くなり、習得困難度が上がると考えられる。

OIII タイプ ($M = 4.6$) の漢語は日本語のほうが意味的には範囲が広く、中国語の意味がその中に含まれ、意味使用の一般性が一致する漢語である。「現金」「失敬」「呼吸」「入口」「判断」という5つの漢語に対応して設けた各問における正答者数から見れば、全体的には、OIII タイプの漢語の平均得点はこの3つのO語のうち、もっとも低かったタイプである。問18の「入口」の得点が満点に近く、11点であった。それに対して、問15の「弟は現金な性格で、得にならないことは絶対にしないよ。」の得点は1点であり、極めて低かった項目であった。問18の「入口」と問15の「現金」は中国語の日常生活でよく使われている漢語である。問18の「入口」は日中共有している意味は「入り口」である名詞としての使い方に対

し、中国語におけるもう一つの特有の意味がある。それは、動詞として「口に入れる」ということである。しかし、これは動詞としての用法で、学習者にとっては容易に判断できる。一方、問 15 の「現金な性格」のような表現では、日本語における特有の意味なので、学習者にとっては、このような日本語の意味が習得し難く、正しく判断できなかったと考える。

残りの OII と OVI の誤用判断の平均は中間に位置した。

OVI ($M = 8.6$) タイプの漢語は日中両言語には共通している部分があるが、各々独自の意味も持ち、さらに、共通した意味使用の一般性が一致しない漢語である。「始末」「下手」「処置」「皮肉」「上品」という 5 つの漢語に対応して設けた各問における正答者数から、全体的には、OVI タイプの漢語の平均得点は高かったが、そのうち、もっとも平均が低かった問 30 の「始末な家で、ずいぶん遠く使いに出る時も交通費は出ませんでした。」(全員平均 = 1 点) に対して、問 31 の「下手」は全員満点で、誤用が正しく判断できた。その理由としては、日本語と共有していない意味が中国語の中で使用の一般性が高い意味であるため、日本語においては使われていないと区別できるのではないかと考えられる。

OII タイプ ($M = 7.6$) の漢語は日本語のほうが意味的範囲が広く、中国語がその中に含まれ、意味使用の一般性が一致しない漢語である。「質問」「入手」「資格」「栽培」「感激」という 5 つの漢語に対応して設問した。正答から見ると、このタイプのうち、問 14 の「いつもお世話になりました、感激しております。」、問 56 の「どこから入手すればよいのか、困ります。」の得点が、全員平均 = 6 点に対してもっとも低かった。問 14 の「感激」の誤用文として、「いつもお世話になりました、感激しております。」では、母語の影響で、中国語の「感激」は「感動するほど感謝する」を表すが、日本語のほうでは、ものすごく嬉しいことがあり、感情が高まる場合に使用され、「感動」の意味に近い表現である。そのため、ありがたい気持ちや感謝の気持ちを表す場合、「感激」を使うと「ありがとう」という意味が希薄になってしまい、やや異なっている意味を表す。一方、問 58 の「栽培」の得点(全員平均 = 10 点)は満点に近かった。日本語にはなく、中国語の中によく使われている意味である。それゆえ、誤りやすくなる傾向があるように思われたが、結果として全員の平均得点はやや高かった。これらの項目は日本語と中国語の両言語間の意味使用の一般性が一致せず、日本語にある使用一般性が高く、中国語としてもあまり使用性が高くないが、日本語ではよく使われるため、学習者が日本語と中国語の漢語の意味を区別でき、母語からの干渉をあまり強く受けなかったといえる。

6. まとめ

本稿は日本語と中国語の同形類義語 (Overlap 語) に着目し、従来の枠組みを見直して、意味範囲の広さおよび意味使用の一般性を併せて、O 語を 6 分類にした。この枠組を用いて、中国人日本語学習者を対象に O 語の意味の誤用と正用から習得状況を調べた。その結果は、以下の 2 点にまとめられる。

第 1 に、正用文と誤用文を判断する際に、学習者に母語とする中国語の漢語知識からの転移が見られた。特に誤用文を判断する場合、O 語の習得における違いが顕著であった。意味使用の一般性から見ると、中国人日本語学習者にとっては、意味範囲および意味使用の一般性に基づき、6 分類した O 語のうち、意味使用が一致する O 語は意味使用が一致しない O 語より、誤用判断で誤りが起こっている。その要因は、意味使用が一致する O 語の習得において、母語の漢語知識に依存しすぎる傾向があるため、日本語と中国語の意味を混同しやすく、習得には曖昧性が生じているからだといえる。

また、意味範囲の広さから見ると、両言語における語の意味範囲の関係は包摂関係であり、なおかつ包摂部分の意味使用一般性が日本語と一致しない O 語、また、日中両言語において一部意味的に共有しており、なおかつこの共有する意味使用の一般性が一致しない O 語を含む誤用文に対しては、判断しやすく、習得においては、中国語の漢字知識からの負の干渉を受けにくい。特に OIV は OII, OVI より誤用判断しやすいという結果を得た。その要因は、中国人日本語学習者にとって、中国語の意味範囲は日本語よりも小さく、しかも中国語の意味はすべて日本語の中に含有されるため、母語の干渉が起こり難く、習得しやすいと考えられる。

第 2 に、本稿は、O に対して、三浦 (1984) の 3 分類と陳 (2009) の 2 分類の先行研究を踏まえ、6 分類を行った。これは、意味範囲の広さと意味使用の一般性の両方を考慮し、より細かく分類したものである。これにより、母語である中国語と目標言語である日本語の間にある意味的曖昧さを解消できた。すなわち、意味範囲の広さおよび意味使用の一般性から、O 語の習得においては、中国語の漢字知識からすべて正の干渉ではなく、意味使用の一般性が一致すると、負の干渉が働き、意味使用の一般性が一致せず、意味範囲が広がると、負の干渉も潜在的に存在することが実証できた。

以上のように、本稿の新たな視点で得られた結果は、中国人日本語学習者に今後の同形語、特に同形類義語 (O 語) の習得に資する知見につながると確信できる。

今後は、さらに漢語の使用頻度、漢語の品詞分類など

を考慮した厳密な被験者の測定追加調査を実施するとともに、同形類義語（O 語）以外の習得についても研究するつもりである。

[参考文献]

- 1) 文化庁：中国語と対応する漢語，大蔵省印刷局，東京，1978.
- 2) 小森和子，玉岡賀津雄，齊藤信浩，宮岡弥生：第二言語として日本語を学ぶ中国語話者の日本語の漢字語の習得に関する考察，中国語話者のための日本語教育研究，5，1-16，2014.
- 3) 大和祐子，玉岡賀津雄：中国人日本語学習者の日本語漢字語の処理における母語の影響，ことばの科学，22，117-135，2009.
- 4) 早川杏子，玉岡賀津雄：中国人・韓国人日本語学習者による聴覚・視覚提示の言語間同形義・言語間異形同義の二字漢字語の処理，小出記念日本語教育論集，20，17-32，2012.
- 5) 三浦昭：日本語から中国に入った漢語の意味と用法，日本語教育，53，102-112，1984.
- 6) 陳毓敏：中国語母語学習者の日本語の漢字語習得研究のための新たな枠組みの提案—意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して—，日本語科学，25，105-117，2009.

[付録資料：調査用紙]

日中同形類義語を含む文の正誤判断調査

生年月日 19 年 月 日
 性別 男・女
 日本語学習歴（ ）年（ ）ヶ月
 最終学歴（ ）
 専門分野（ ）

ご協力，誠にありがとうございます。以下は日本語の漢字を使った例文です。それらの文に対して，正しいと思えば，○を，正しくなければ，×を（ ）の中にご記入ください。

1. () 解決 徹夜して，やっと問題を解決しました。
2. () 研究 彼の研究分野は日本古代史です。
3. () 架空 想像した架空の物語をプレゼントにつけて，いつもの景色をもう少し特別なものにしてお届けします。
4. () 愛情 親からの愛情を一杯もらいました。
5. () 遠慮 はじめて来たお客さんは遠慮して何も食

べませんでした。

6. () 同居 彼の一家は老若3世代が1部屋に同居しています。
7. () 進行 会議をうまく進行させ，有意義な時間に行けるかどうかは進行の仕方が大きく影響します。
8. () 質問 発表内容について，質問されました。
9. () 現金 現金で家賃をお支払いください。
10. () 失敬 先生に対して，失敬なことを言っていました。
11. () 入口 ピークになると，ホールの入口は混雑します。
12. () 判断 使い方が正しいか，正しくないか，自分で判断してください。
13. () 呼吸 新鮮な空気を呼吸したいです。
14. () 感激 いつもお世話になりまして，感激しております。
15. () 現金 弟は現金な性格で，得にならないことは絶対にしないよ。
16. () 失敬 あいつはホテルのスプーンを失敬した。
17. () 呼吸 ボールがこの辺に来た時にバットを振ります。この呼吸がちょっと難しいですね。
18. () 入口 このチョコレートを入口すると，すぐ溶けるよ。
19. () 判断 姓名の画数などによって，人の運勢などを判断します。
20. () 架空 彼の実権を架空することに腐心しています。
21. () 愛情 本当の愛情は試練に耐えるものです。
22. () 遠慮 成功の秘密は先々のことを考える遠慮にあることだ。
23. () 迷惑 日本に来たときよく道を迷惑していました。
24. () 邪魔 あの森に人を食う邪魔が住んでいるという噂が流れています。
25. () 同居 彼女と2年間同居してから，結婚しようと決心しました。
25. () 進行 我が軍隊は今，敵方に進行しています。
27. () 留守 留守孤児は今，厳しい社会問題となりました。
28. () 意見 若い頃，おやじにはよく意見されました。
29. () 単位 各単位の人はみんな現場にそろいました。
30. () 始末 始末な家で，ずいぶん遠く使いに出る時も交通費は出ませんでした。
31. () 下手 下手する機会を待っています。
32. () 処置 この事件の主謀者を処置します。

33. () 皮肉 あの人はすごく可哀そうで、生まれてから母親が病気で亡くなってしまい、生存のため、皮肉商売をやり始めました。
34. () 感激 無私の行為に感激します。
35. () 留守 会社を 2, 3 日留守している間に仕事が多まってしまいました。
36. () 入手 留学情報はやく入手したほうがお勧めです。
37. () 資格 今日、博士論文の資格審査を取りました。
38. () 栽培 農家は今年から新種みかんを栽培する予定です。
39. () 意見 発表が終わったら、みんなからコメントや意見をもらいました。
40. () 単位 メートルは長さを表す単位です。
41. () 始末 事件の始末を一々述べました。
42. () 下手 字をわざと下手に書きます。
43. () 処置 処置が早ければ早いほどケガが回復できます。
44. () 皮肉 他人に対して、よく辛辣な皮肉を言う人です。
45. () 上品 日本語学習者はみんな上品な日本語を話せるわけではありません。
46. () 解決 警察は犯人を全部解決しました。
47. () 修理 俺に服従しない人を修理します。
48. () 上品 この酒は酒類において上品です。
49. () 現実 波乱万丈な人生を経てから、もともと天真爛漫だった彼女は今、現実になりました。
50. () 理想 入学試験の結果が出きましたが、あまり理想ではないです。
51. () 研究 会議中、どうやってアジア市場に進出すればよいのかという議題を深刻に研究しました。
52. () 修理 昨日、壊された時計を家で修理してみました。
53. () 現実 現実はいつも残酷です。
54. () 理想 若い頃の理想は高く輝きました。
55. () 質問 どうして宿題を提出しないのかと先生に質問された。
56. () 入手 どこから入手すればよいのか、困ります。
57. () 資格 あなたは何も知らないのだから、口をだす資格はない。
58. () 栽培 教育の目的は優れた人材を栽培することです。
59. () 迷惑 いろいろ迷惑をかけて、大変申し訳ないです。
60. () 邪魔 お邪魔します。

(受理 平成 29 年 3 月 10 日)